

■町の庭師の手帳より

Title

サマータイム ー亜熱帯日本ー

Memo

新年を迎え、寒さが身に益々応える季節であるので皆さんは、昨年の夏の猛暑を覚えているだろうか。

何しろ観測史上軒並み記録尽くしの暑さであったのは、現場での外仕事の庭師には思い出したくもない記憶である。特に群馬県の東毛地区の暑さは沖縄県を遥か乗り越えて日本一の暑い地域と言って過言ではない。

ここまでくると地球温暖化という徐々に気温が上がっていくような感じに連想させる生易しい言葉ではなく、熱中症で病院に運ばれる方や亡くなられる方がここまで出るこの状況は、待たなしの大型都市災害であり、どうにかしなくちゃならないと思う方は私だけではないはずである。

このまま日本は亜熱帯へと進んでしまうのが。造園的な立場から言えば今こそ緑を増やす政策をどんどん進め地球温暖化から緑で地球を救おうと言うべきところだとは思のですが、そちらは一気に世界中に緑が増えるという訳にはいかず長期

的に進めていくことが大事であり、ここでは一人の日本で外仕事に携わる者として提案したい。

日本でもサマータイムを導入したらどうだろうか？  
世界中の様々な国で行われているようなので…  
省エネ効果や経済効果も結構ありそうだし…  
朝の涼しい時間からたっぷり仕事をして…

サマータイムの導入も賛否両論あるかと思いますが、こんなことを真剣に庭師の私でも考えるくらい猛暑だったということです。

中長期的には日本列島ジャングル構想？や日本列島里山構想？でもいい。地球全体を緑で覆うグリーンアース計画なんてのも夢膨らむが、もう半年後は現実として暑さという大型都市災害がまた起こることが考えられる訳で…。

冬場の寒い季節のこの時期に何やらピンとこない話だと思つ方もいらつしゃると思うが、皆さんがついつい忘れかかったこの時期に今年の夏も、またまたその次の夏もと考えると真剣にこんなことも考えるべきではないかと思うのは私だけではないはずで

(株)山田植物園・山田 進

■追記

“身近な猛暑対策”

平成22年の記録的な猛暑は「30年に一度の異常気象」と言われており、10月になっても夏日の気温の日があった。この夏の暑さで、「熱中症」関係のニュースを連日耳にした。



ここ近年、室内の暑さ対策として、グリーンカーテンに取り組んでいるのを、学校や公共施設等、また一般家庭でも多く目にする。グリーンカーテンは、日差しを遮り、葉から水分を蒸発させて空気の熱をうばう効果があり、室内の温度の上昇を抑える働きをする。この取り組みにより、光熱費が抑えられる。いわゆる省エネである。

これからは、自然の働きを取り入れてエネルギー資源の消費をひかえ、地球温暖化対策に取り組んでいくことが大切だと思う。環境にやさしい取り組みが、財布にもやさしくなればなおさらのことである。

(上武緑化株)・入澤 智明

■広報委員長報告

遅ればせながらホームページが協会青年部中村君（株）中村造園）を中心としたプロジェクトによりリニューアルされ本年より徐々に可動します。会員間のコミュニケーションの手段として、また県民皆様に向かってタイムリーな緑化推進情報発信基地として機能してゆくことを期待しましょう。（中央群馬工業株）・大山 安

■編集後記

むしむしとした、猛暑が続く夏バテ対策には、十分気をつけたとおもいますが、これからは、エコとウオーம்பイズの関係を考えてみました。ウオーம்பイズは暖房に必要なエネルギー使用量を削減することによって、CO<sub>2</sub>発生を削減し地球温暖化を防止することが目的です。これから、風邪を引きやすい時期ですが、あったかウオーம்பイズで体調を整えていきましょう！

(株)八木造園・岩崎 重雄